



独立行政法人 **国立長寿医療研究センター**

National Center for Geriatrics and Gerontology

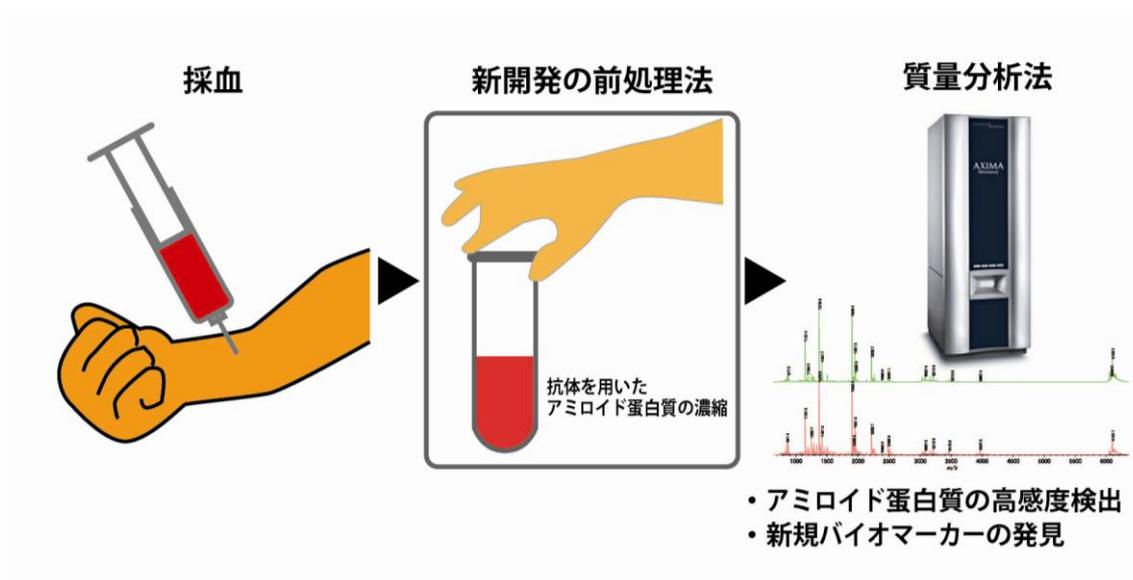
国立長寿医療研究センターは島津製作所と共同でアルツハイマー病の画期的診断法の確立をめざし、血液バイオマーカーの開発に着手

2013年4月10日

独立行政法人国立長寿医療研究センター(理事長:大島伸一、以下、長寿医療研究センター)は株式会社 島津製作所(社長:中本晃、以下、島津製作所)と、国が助成する最先端研究開発支援プログラム(FIRST)30テーマの1つ田中プロジェクトで昨年度より共同で研究・開発を展開しています^(注1)。この度、アルツハイマー病の画期的診断法の確立をめざし、血液バイオマーカーの開発に着手しました。本研究開発は、島津製作所が保有する高選択性、高感度、高精度の質量分析システムによる蛋白質解析技術(下図)を基盤に、長寿医療研究センター病院を受診される高齢者のご協力を得て実施するものです。アルツハイマー病においては、認知機能障害が出現する10年以上前から脳のなかにアミロイドと呼ばれる異常な蛋白質が蓄積し、これが契機となって神経細胞の変性や脱落が生じ、最終的に認知症に至ると考えられています。従って、脳内のアミロイドの蓄積を正確に検出することが臨床的にも研究面においても重要な課題となっています。現在、アミロイド蓄積に関しては、PET(陽電子放射断層撮影)と呼ばれる高度な機器を用いた脳画像診断や脳をとりまく髄液の生化学的検査により評価することが可能です。しかしながら、いずれも高い技術と充実した設備を必要とし、通常の臨床現場で行える検査ではありません。本研究開発は、被検者から容易に採取できる血液を対象に、脳内のアミロイド蓄積を捕捉しようとする試みです。アルツハイマー病の血液バイオマーカーの開発はこれまで世界で試みられていますが、測定感度の問題等で、いまだ成功していません。本研究開発により、血液バイオマーカーの構築に成功した場合には、アルツハイマー病の日常診療のみならず、治療薬開発にも計り知れない大きな貢献をするものと期待されます。

(注1) 本研究・開発は、FIRSTプログラムの研究課題である「次世代質量分析システム開発と創薬・診断への貢献」(中心研究者:田中耕一)の一環として、長寿医療研究センターが島津製作所から受託するものです。

従来法より数10倍以上の高選択性を有する前処理法



提供：島津製作所

本件に関するお問合せは、下記でお受け致します。

【研究開発の内容】

国立長寿医療研究センター 認知症先進医療開発センター

柳澤センター長室

電話：0562-44-6594 E-mail: katuhiko@ncgg.go.jp

【報道対応】

国立長寿医療研究センター総務部総務課

電話 0562-46-2311(代表) E-mail: webadmin@ncgg.go.jp